平成27年度包括外部監査

監査のテーマ：千葉市が実施する廃棄物対策事業（ごみ減量・再資源化事業、ごみ処理事業、し尿処理事業、浄化槽指導事業及び産業廃棄物対策事業）に係る事務の執行について

第3 外部監査の結果 II 廃棄物対策に係る監査結果について

II-1. ごみ収集運搬業務及びし尿処理事業等について 1. 環境事業所における普通ごみ等の収集運搬業務等について (1) 家庭系一般廃棄物の収集業務について ③結果 ウ. 委託費について

監査の結果（指摘事項の概要）	講じた措置
<p>(ア) 収集車両台数の削減について（報告書 P73）</p> <p>【現状・問題点】</p> <p>市でごみの排出量削減を目指している目的の一つには、収集コストの削減もあり重要な視点であることから、収集車両台数が適正な台数になるよう業務委託の内容を改善する必要があるものと考えられるが、このような視点や改善の方向性を検討してはいない。確かに、資源物の収集運搬作業の効率化策には、ごみの収集運搬作業と異なる要素があることは認めるべきであるが、可燃ごみ及び不燃・有害ごみのそれぞれの収集運搬業務委託において、その設計書上、ごみ収集車両の台数を大幅に削減することが可能であるものと考えられる。この点、適正な業務委託のコスト水準へ収れんさせるための視点と活動が欠けているものと考えられる。</p> <p>そのような視点を持ち、業務委託の効率化への活動を行うためには、特に、委託業務の効率性に関して、運転手・収集職員の人員を考慮した1台当たり収集車両の運搬ごみ量がいかに効率的であるべきかという標準単位の効率性尺度を市も持つ必要があるものと考えられ、その上で、清掃工場への搬入距離や市街地、山間地等の収集運搬の効率性に関わる要素を考慮して、標準単位の補正を図る必要がある。</p> <p>【結果】</p> <p>委託業者から提出を受けている月報のデータを多面的に分析するなどして、収集運搬業者の業務量の水準が、仕様書に記載している業務量水準の設定された指標等と大きく乖離しないような適正な収集車両の台数を検討されたい。また、業者間の負担を平等化するための収集区域の見直しを検討されたい。</p>	<p>収集運搬業務については、平成30年度から市民サービスの向上及び業務の効率化を目的として、可燃ごみ・剪定枝等、不燃ごみ・有害ごみの収集運搬委託業者全てにより設立された組合に、一括契約することとした。一括契約したことにより収集区域の見直しが行われ、収集車両数を増加することなく収集品目の増加（剪定枝の収集）に対応している。</p> <p>また、令和2年度から性能発注を導入し、令和3年度には資源ごみにも範囲を広げ、各車両の収集状況の分析を行うことで、最適な収集ルートや収集区域の見直しを継続的に行っている。</p>